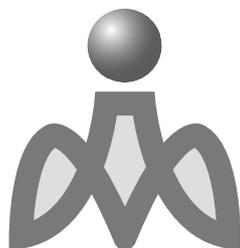


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成17年7月～9月実績〕
〔平成17年10月～12月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の景況概況	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概況	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概況	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概況	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概況	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【I】 調査要領

1. 調査対象

- (1) 対象地区 10商工会
- (2) 対象企業数 165企業
- (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

- 第2四半期 平成17年7月～9月期
- 調査時点 平成17年9月5日

3. 調査方法

県下の調査対象企業を10商工会の経営指導員が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	計
塩山市	4	2	6	3	15
都留市	4	2	6	3	15
南アルプス市	4	2	6	3	15
北杜市	4	2	6	3	15
笛吹市	8	4	12	6	30
鵜沢町	4	2	6	3	15
身延町	4	2	6	3	15
田富玉穂	4	2	6	3	15
河口湖	4	2	6	3	15
上野原町	4	2	6	3	15
計	44	22	66	33	165

5. その他

本報告書のD I値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の景況概況

売上額の指標は、今期は「製造業」「建設業」では下降しており「小売業」「サービス業」では横這いという結果となっている。

「製造業」では平成16年7～9月期を頂点として今期も下降しており右肩下がりの傾向となっている。大企業や輸出関連企業を中心に景気は好調であると発表されているが、本調査の山梨県の中小企業に限っていえば景況は低調であるという結果になっている。

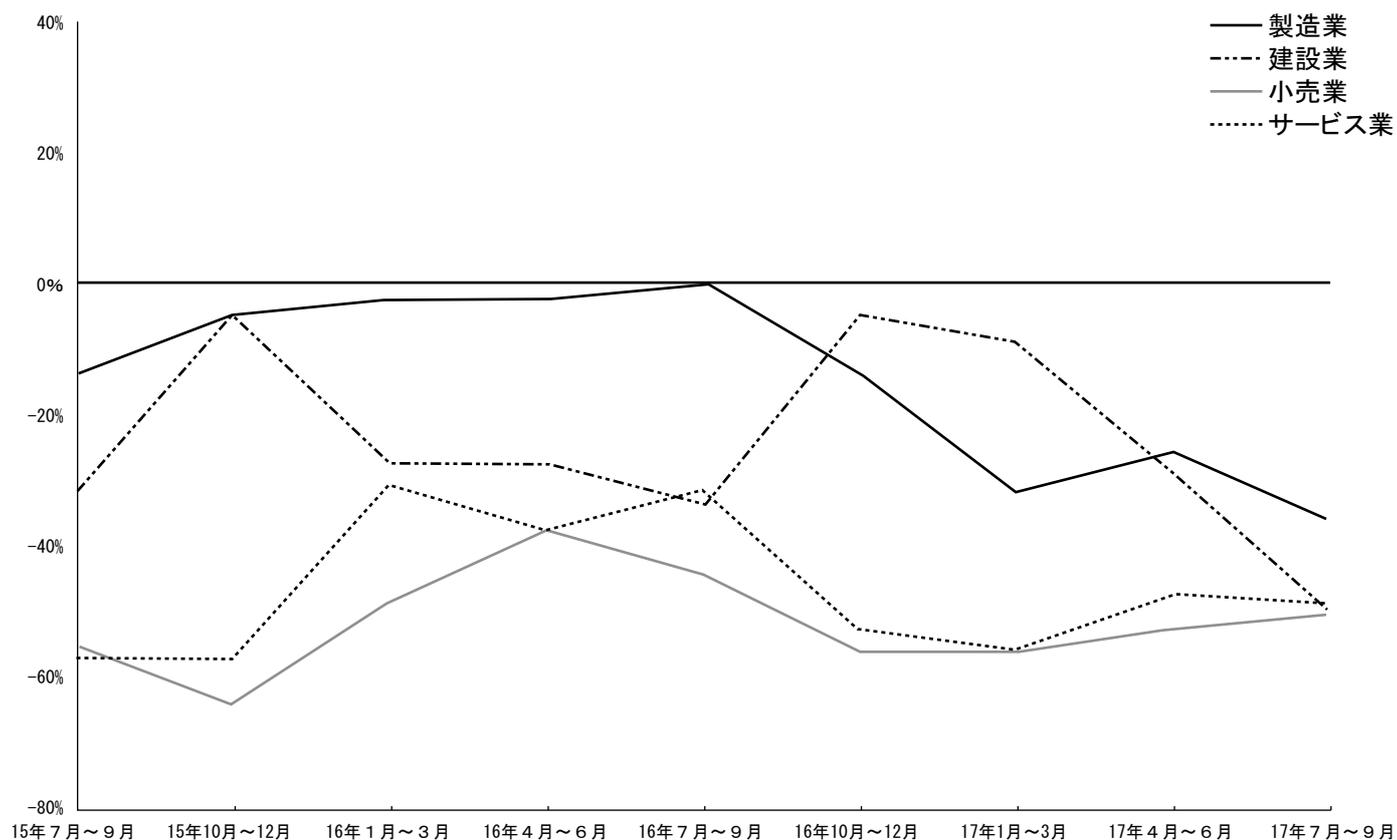
「建設業」では、今期も大きく下降しており、しかも採算の指標は-63.6とかなり低水準となっている。

「小売業」では売上額の指標は前期に引き続きわずかな上昇で横這いであるが、低水準で推移している。

「サービス業」では指標はわずかに下降して横這いであるが、採算は平成16年7～9月期から低下傾向であり指標は-51.6となっている。

山梨県 全産業

売上（完成工事）額の推移 ー前年同期比ー



2. 製造業の動向

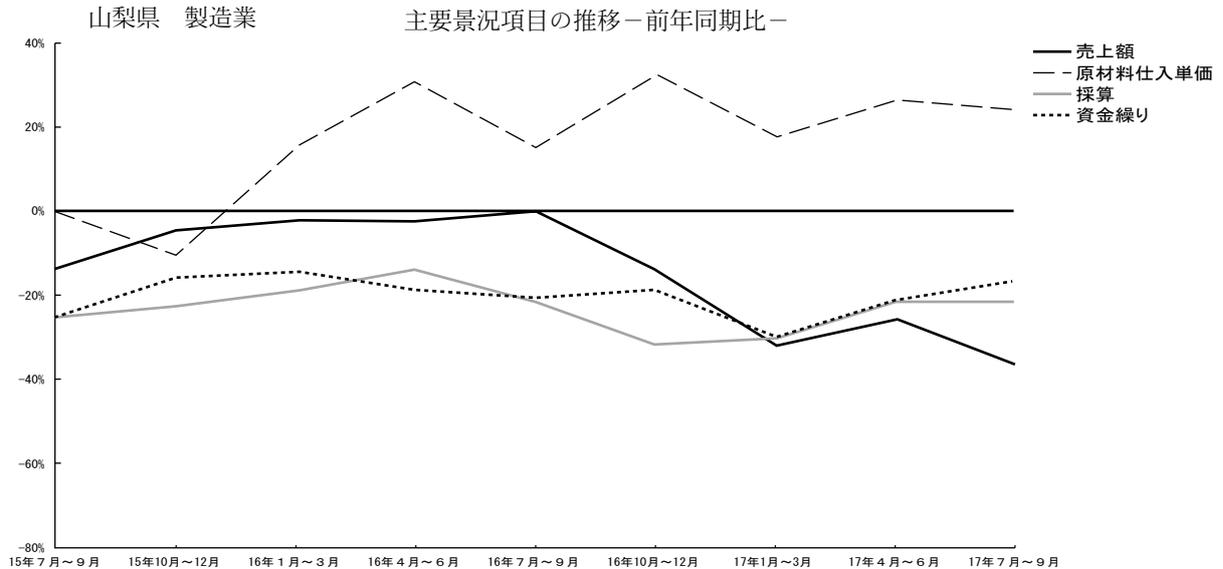
1. 景況概況

「売上額」の指標は、今期では△10.9下降して-36.4となった。輸出関連企業を中心に大企業では、景気は好調であると言われていたが、山梨県の中小製造業では、好調とはいえない指標となっている。

「原材料仕入単価」は今期は△2.0下降して24.3となった。依然として高い水準であるので注視していく必要がある。

「採算」は前期より+0.5上昇とほぼ横這いであり-20.9となった。原材料の仕入れ単価の上昇が長期間に渡り続いており、売上高が低迷している中でも、企業は効率的な材料使用に努力していると思われる。

「資金繰り」は+4.3上昇して-16.6となった。



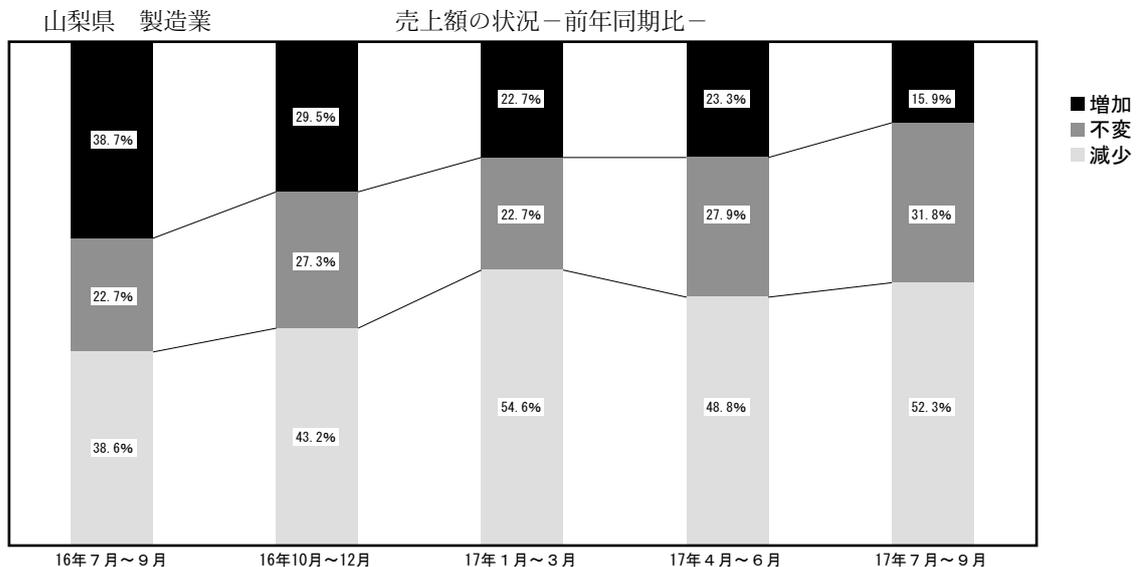
2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

前期（平成17年4～6月期）より△10.9下降して-36.4となった。平成16年7～9月期を頂点として前期はやや回復したものの、今期は再び下降しており、傾向的には右肩下がりでも推移している。

株価は上昇傾向であり大企業を中心に景気は回復しつつあると各種指標では報告されているが、本調査の県内中小企業においては、低調であるという景況実感となっている。

県内製造業の状況は（財）やまなし産業支援機構の「中小企業景気速報」平成17年9月号によると、県内下請企業の景況は、自動車、工作機械関連、デジタル機器部品でまずまずの仕事量をかかえており概ね堅調に推移している。また液晶、半導体製造装置関連部品でも、一部企業で動きが見られるなど、全体としては若干上向き傾向であると発表している。



(2) 採算

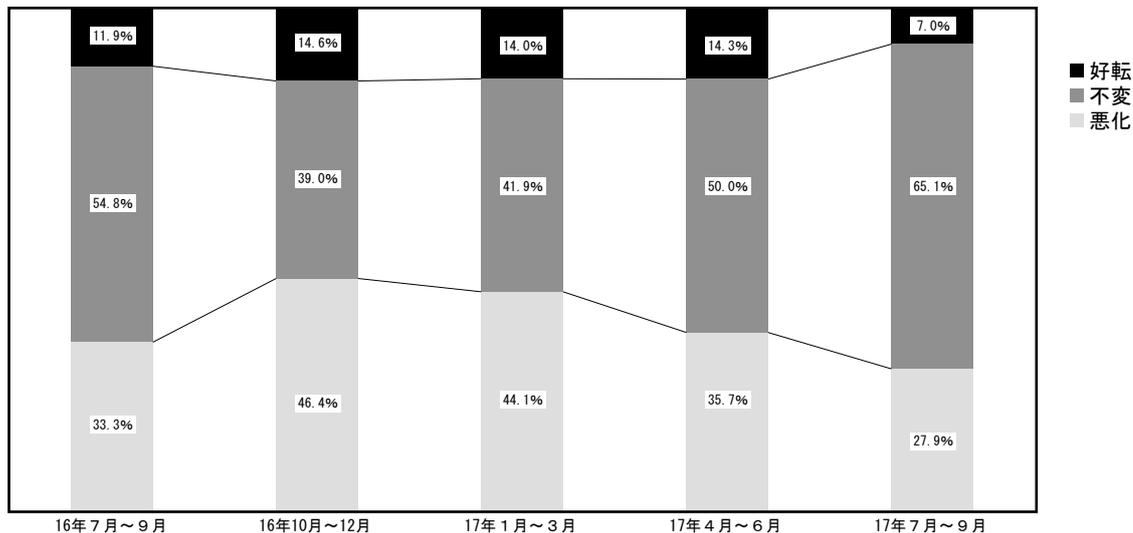
売上高は下降したが、採算はそれには連動しておらず+0.5とわずかに上昇して-20.9となった。

平成16年10～12月期を底として低水準ながらも連続3期回復傾向となっている。要因としては、原油価格の上昇に伴った「原材料仕入単価」の価格がある程度落ち着いてきたことと企業の対策が進んできたことが考えられる。

「従業員（含臨時・パート）」は今期は+12.2上昇して4.9となったが採算の悪化には連動していないものとみられる。

山梨県 製造業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

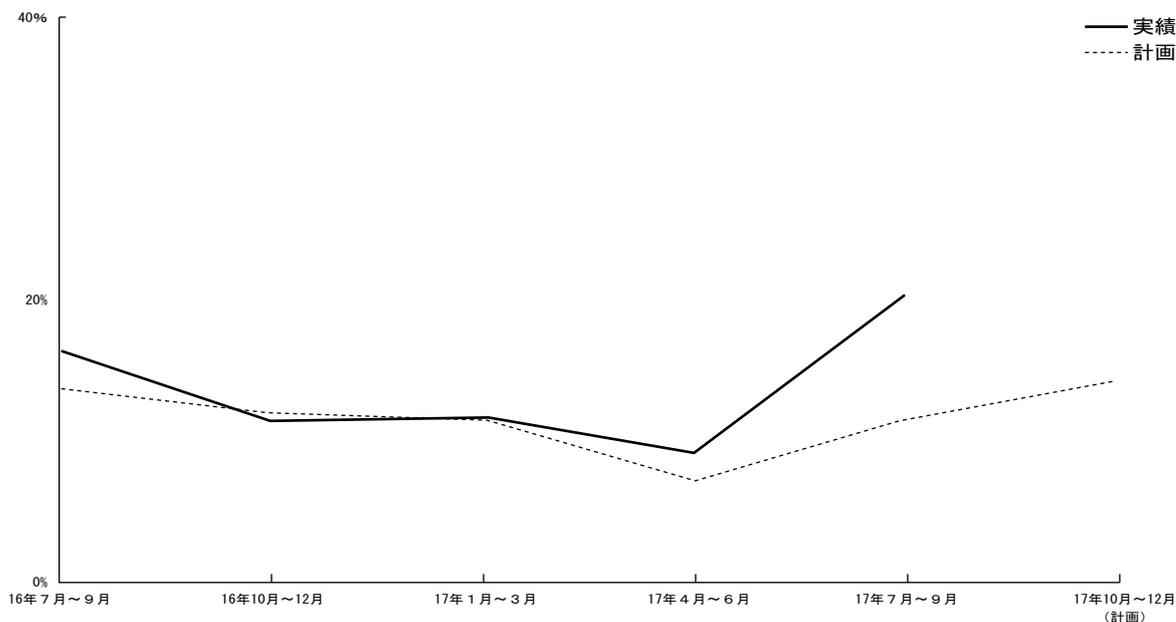
「今期実施」は、前期より大幅に+11.4%増加して20.5%の企業であった。計画していた企業は11.6%であったので実施した企業のほうが今期も多いという結果であった。

設備投資した内訳は「生産設備」が55.6%、「工場建物」「車両・運搬具」「付帯施設」がいずれも22.2%であり、「OA機器」は11.1%であった。

「来期実施予定」は14.3%と、今期の計画よりは増加する予定である。

山梨県 製造業

設備投資の状況

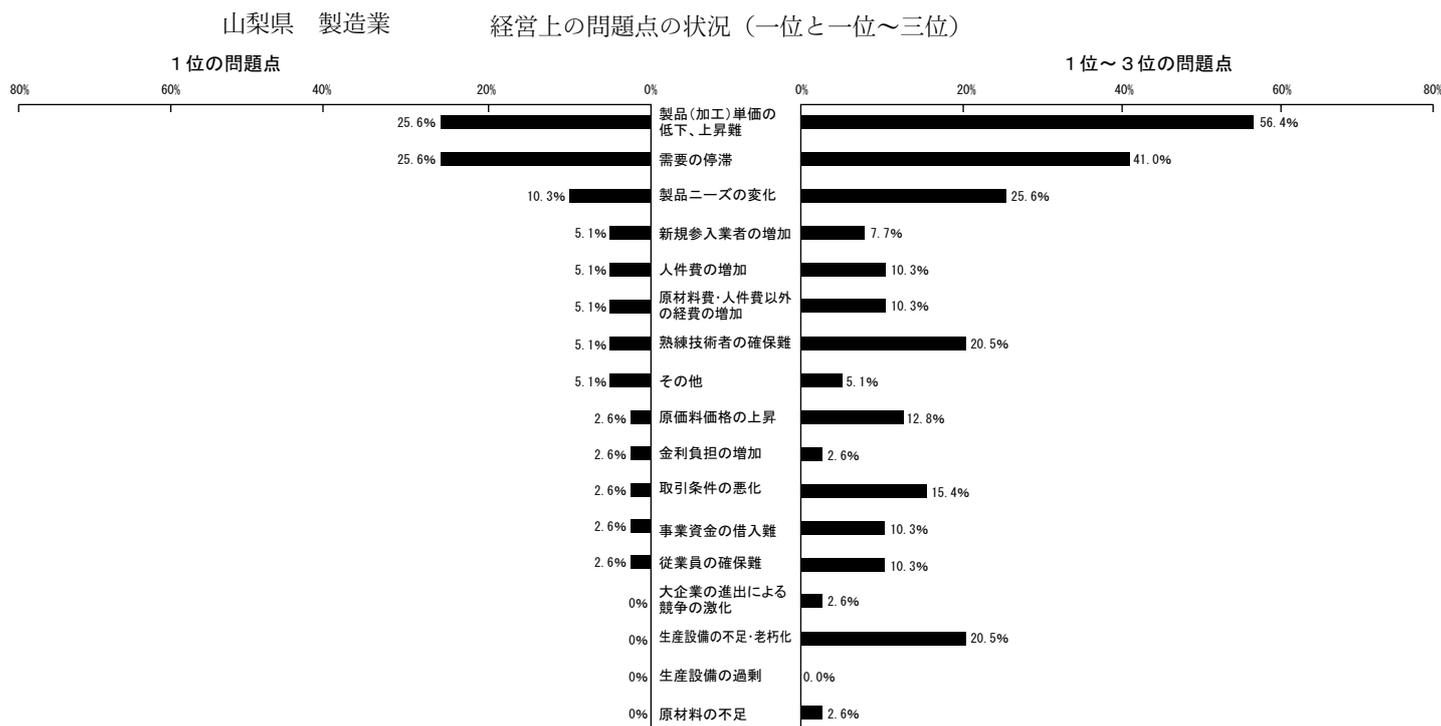


(4) 経営上の問題点

「需要の停滞」は前期より+8.1%と大幅に上昇して25.6%となり経営上の問題点として一番多い項目となっている。輸出関連産業を中心に景気は回復傾向と言われているが、県内中小企業では依然として厳しい経済環境となっているものと思われる。

「製品（加工）単価の低下、上昇難」も+3.1%上昇して25.6%となっており、「需要の停滞」と同比率で共に一番多い項目となっている。

3番目に多い項目は「製品ニーズの変化」である。前期は大幅に上昇したがさらに+0.3%上昇して10.3%となっている。



3. 建設業の動向

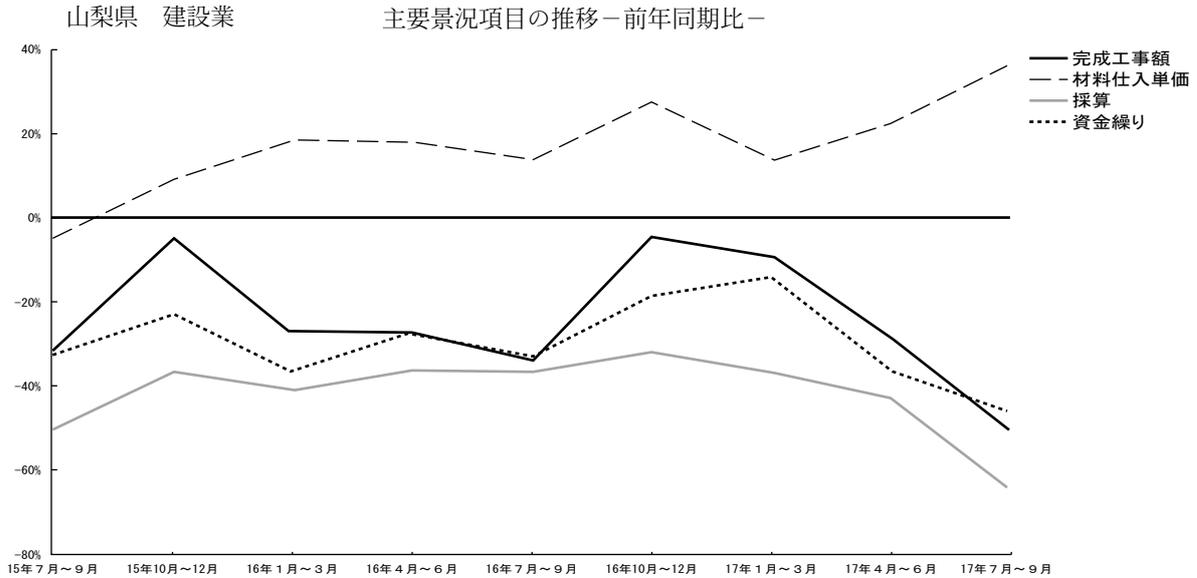
1. 景況概況

「完成工事額」は前期（平成17年4～6月期）より△21.3下降して-50.0となっている。平成16年10～12月期を頂点として3期連続して下降した結果となっている。

「原材料仕入単価」は今期も+13.7上昇して36.4となり、前年同期と比較してさらに高い水準となっている。

「採算」は前期に引き続き△20.8下降して-63.6とかなり低い水準になっている。完成工事額が低い状況であり、しかも原材料価格が上昇しており、業界全体が厳しい経済環境であるものと推察される。

「資金繰り」は今期は△9.1下降して-45.5となっており、前期に引き続き下降している。



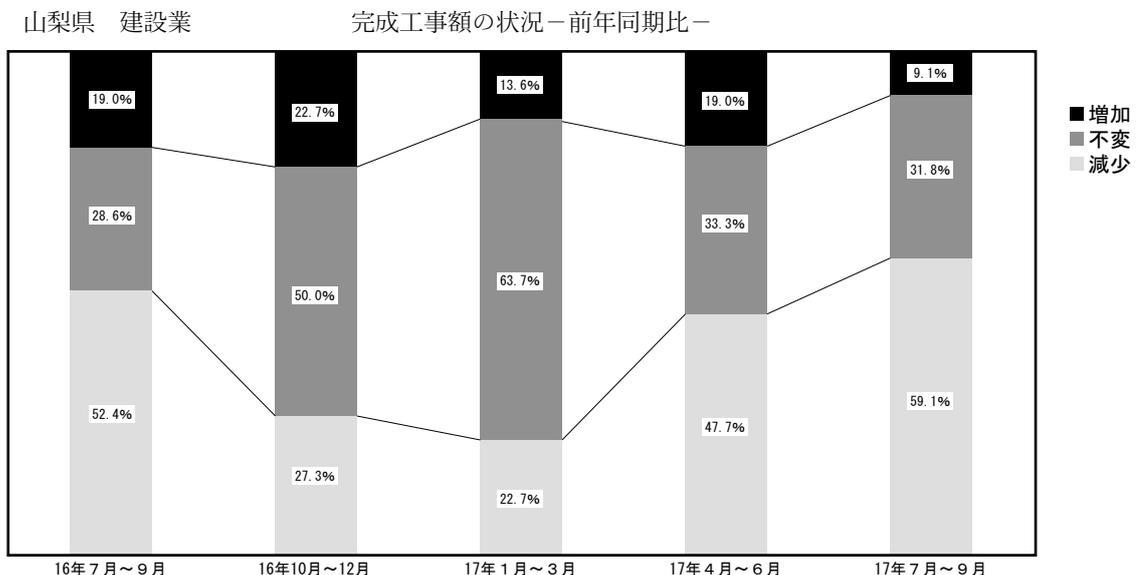
2. 主な項目で見る業況

(1) 完成工事額

前期（平成17年4～6月期）に引き続き△21.3下降して-50.0となった。平成16年10～12月期を頂点として連続3期下降している。

経営上の問題点では「官公需要の停滞」を挙げる企業が今期も一番多く、又増加してきている。

山梨県建築指導課で発表している新設住宅着工戸数では平成17年8月は総数で217戸で前年同期比で△68.1%減であり2ヶ月連続で減少になったと発表している。内訳は持家が146戸で前年同期比△61.4%減、貸家が62戸で△61.3%減であり、分譲住宅は9戸で△93.7%の減になったと発表している。



(2) 採算

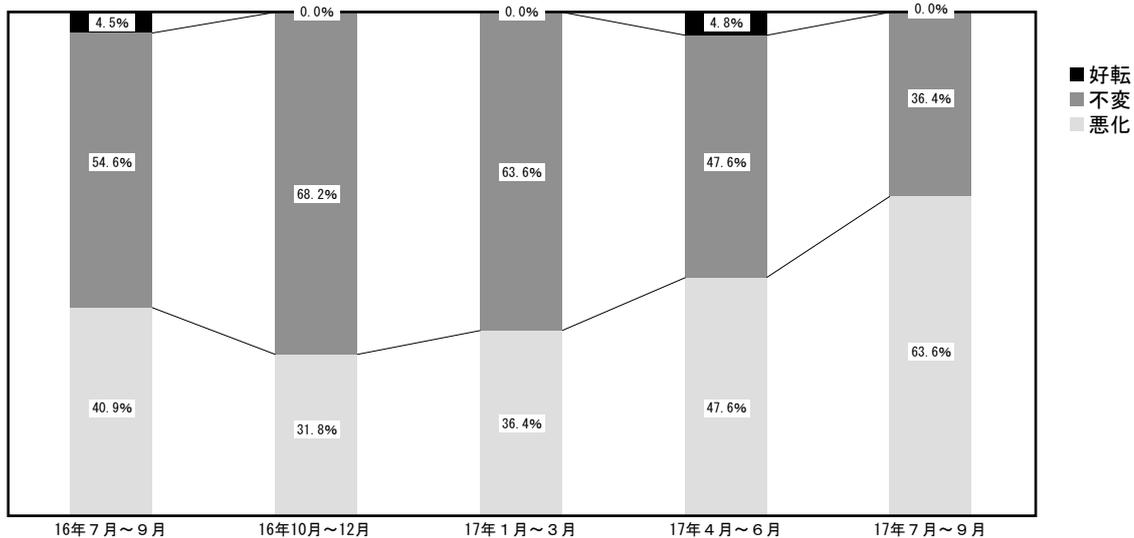
前期に引き続き△20.8下降して-63.6となりさらに低水準となっている。前期に引き続き完成工事額が低下したことに連動した結果になっているものと思われる。

「従業員（含臨時・パート）」は前期に引き続き△1.1下降して-11.1となっている。前期は大幅に下降したが、今期も引き続き下降しており、さらに少数精鋭の経営方針で取り組んでいる企業が多くなってきているものと見られる。

経営上の問題点では「官公需要の停滞」を挙げる企業が増加傾向であり、今後とも、政府や地方公共団体の方針を注視していく必要がある。

山梨県 建設業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

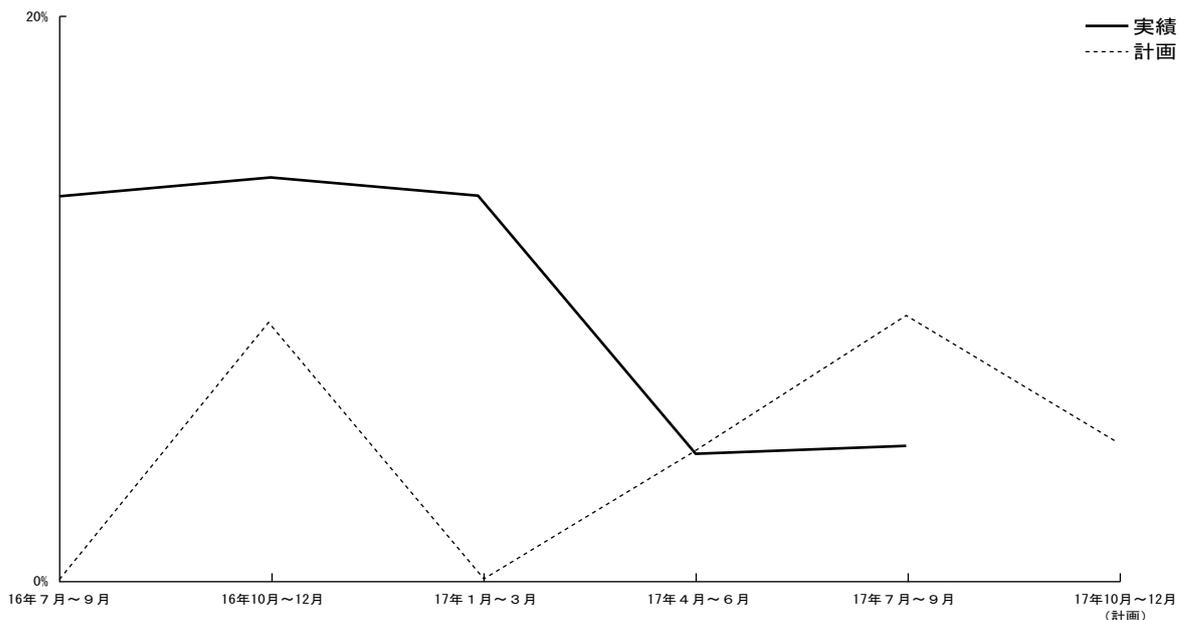
前期より+0.3%とわずかに上昇して4.8%の企業が実施した結果となっている。

設備投資した内訳は「車両・運搬具」及び「OA機器」が100%であった。「OA機器」は前期に計画はして実施するに至らなかったが、今期には実施するに至った。

「来期実施予定」は今期より減少する予定であり、4.8%の企業が計画している。

山梨県 建設業

設備投資の状況



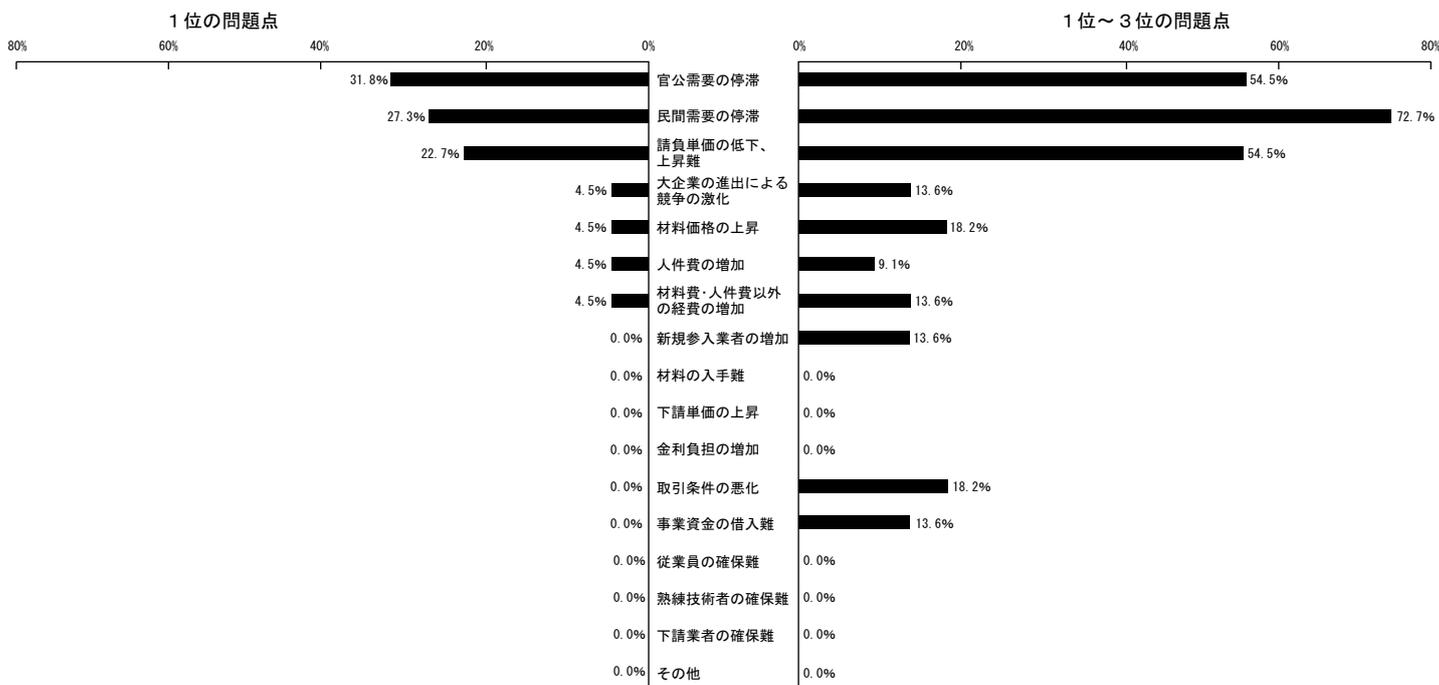
(4) 経営上の問題点

今期は「官公需要の停滞」が+4.5%上昇して31.8%となっており1番多い項目である。

前期までは民間需要の停滞を挙げる企業が多かったが、今期は官公需要の停滞のほうが多い結果となっている。地方公共団体等では、緊縮財政政策を推進しており今後とも、厳しい経済環境となっていくものと思われる。

その次に多い項目は「民間需要の停滞」であり前期より△9.1%下降したが、27.3%と2番目に多い項目となっている。大企業中心に設備投資が回復してきていることが考えられる。「請負単価の低下、上昇難」は+9.1%上昇して22.7%となり引き続き3番に多い項目となっている。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



4. 小売業の動向

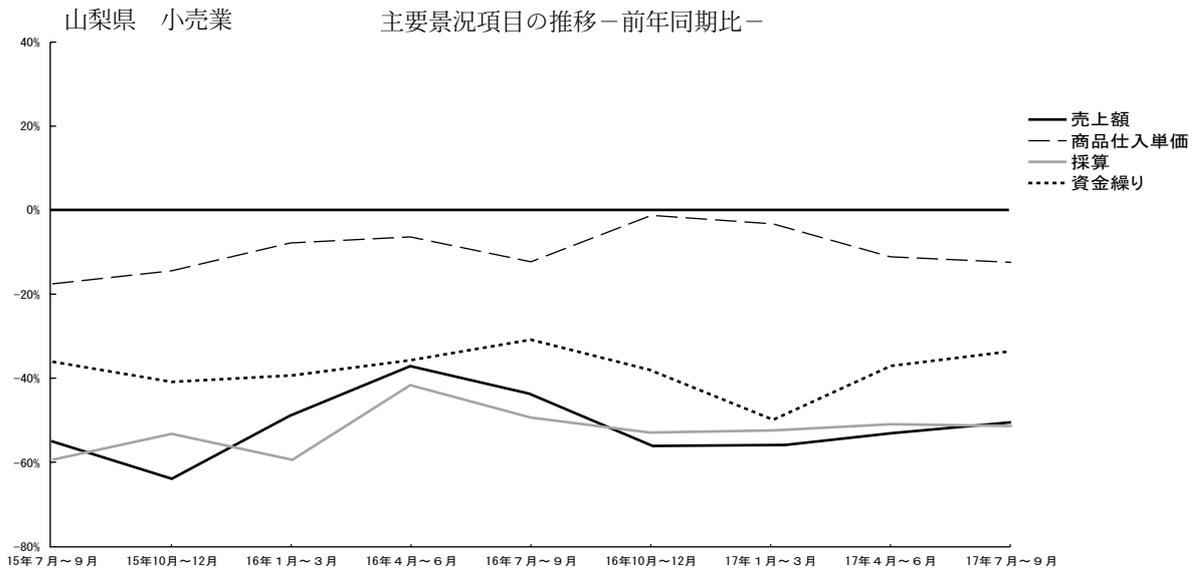
1. 景況概況

「売上額」は前期に引き続き+2.4と若干上昇して-50.0となった。連続4期にわたり傾向的には改善の方向であるが、改善速度はかなりゆっくりしている。

「商品仕入れ単価」は前期に引き続き△1.5下降して-12.9となっている。ガソリンなどの燃料価格の上昇も頭打ちの状況にはなっており、全般的に価格が落ち着いていくことが期待される。

「採算」は売上高と同様に今期も前期とほとんど変わらず△0.8下降して-51.5となった。

「資金繰り」は前期に引き続き+3.2上昇して-33.3と改善した。



2. 主な項目で見る業況

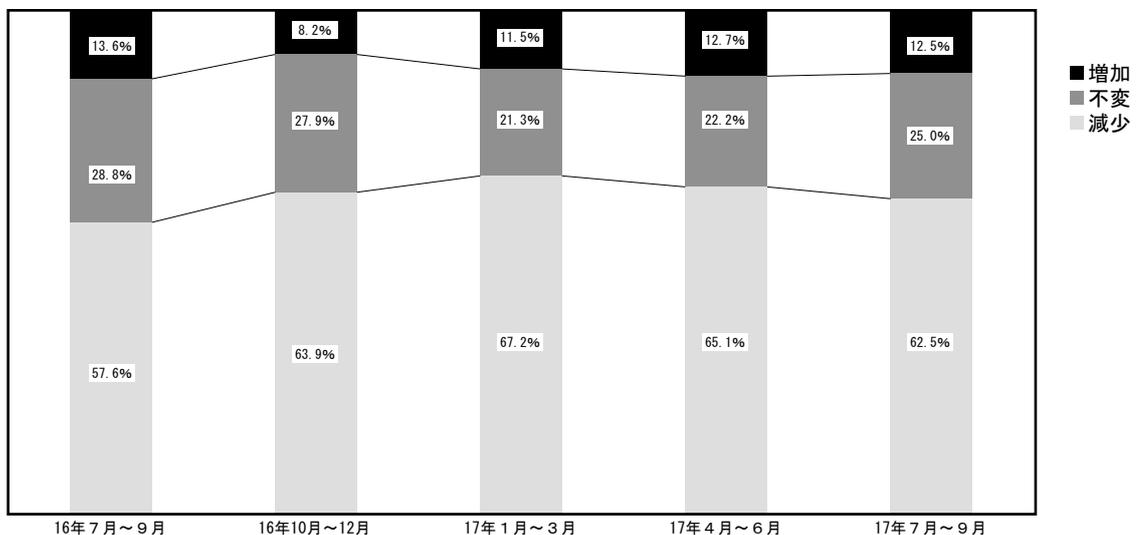
(1) 売上額

前期より+2.4%上昇して-50.0となったが依然として低水準のままである。

「客単価」は前期より+2.2上昇して-39.7だったが「客数」は△10.4下降して-58.7となっており、依然として前年同期と比較すると低い水準で推移している。

大企業を中心に景気は回復傾向であり消費も改善しつつあるといわれるが、経営上の問題点では今期も「大型店・中型店の進出による競争の激化」を売上減の要因として挙げる企業が増加している。特色ある店舗づくりで、量販店にない魅力を創出していく努力が求められているものと思われる。

山梨県 小売業 売上額の状況－前年同期比－



(2) 採算

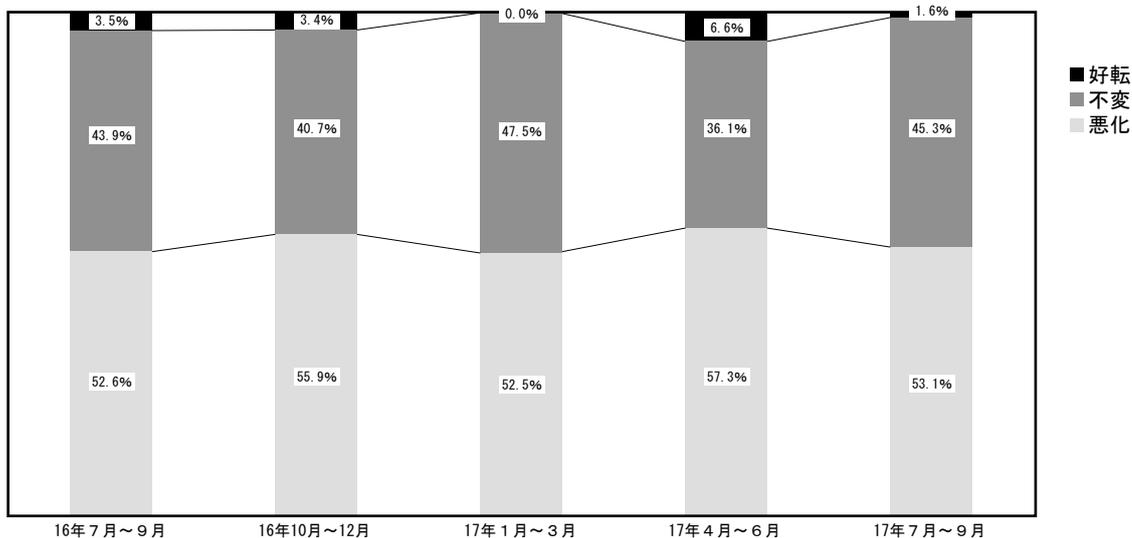
売上高の指標と同じように前期（平成17年4～6月期）とほとんど変わらず△0.8下降して-51.5となっている。

従業員（含臨時・パート）」の指標は+2.0上昇して0.0である。前期に引き続き増加している。

重ね着をして暖房を抑える冬のビジネススタイル「ウォームビズ」商戦が、県内の百貨店やスーパー、専門店でも本格化してきていると山梨日々新聞では報道している。各店とも、夏の「クールビズ」でワイシャツなどが好調だったことから、冬物衣料でも引き続き売り上げ増に期待しているところが多い。

山梨県 小売業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

設備投資した企業は前期より△1.9%減少して4.8%となった。計画の段階では6.7%の企業であったので実施した企業は計画段階よりも若干少なかった。

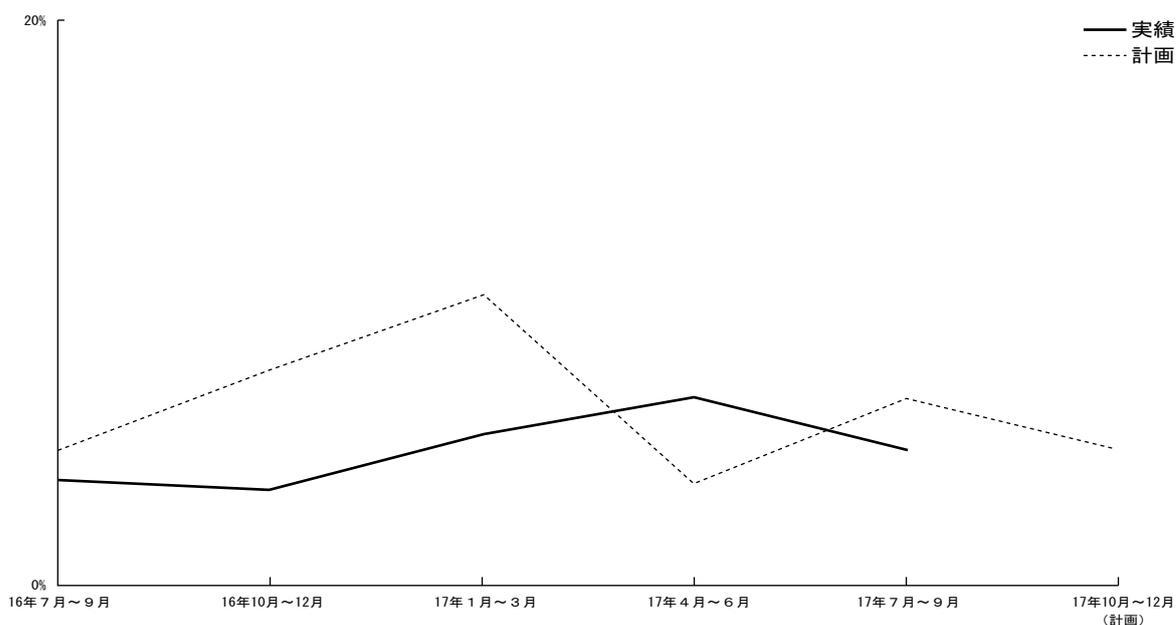
設備投資した内訳は「土地」「店舗」「販売設備」「付帯施設」がいずれも33.3%であった。

「土地」については計画段階ではなかったものである。

「来期実施予定」は4.8%と今期より計画をしている企業が減少する予定となっている。

山梨県 小売業

設備投資の状況



(4) 経営上の問題点

「大型店・中型店の進出による競争の激化」は前期に引き続き△3.4%減少したが34.5%と一番多い項目となっている。

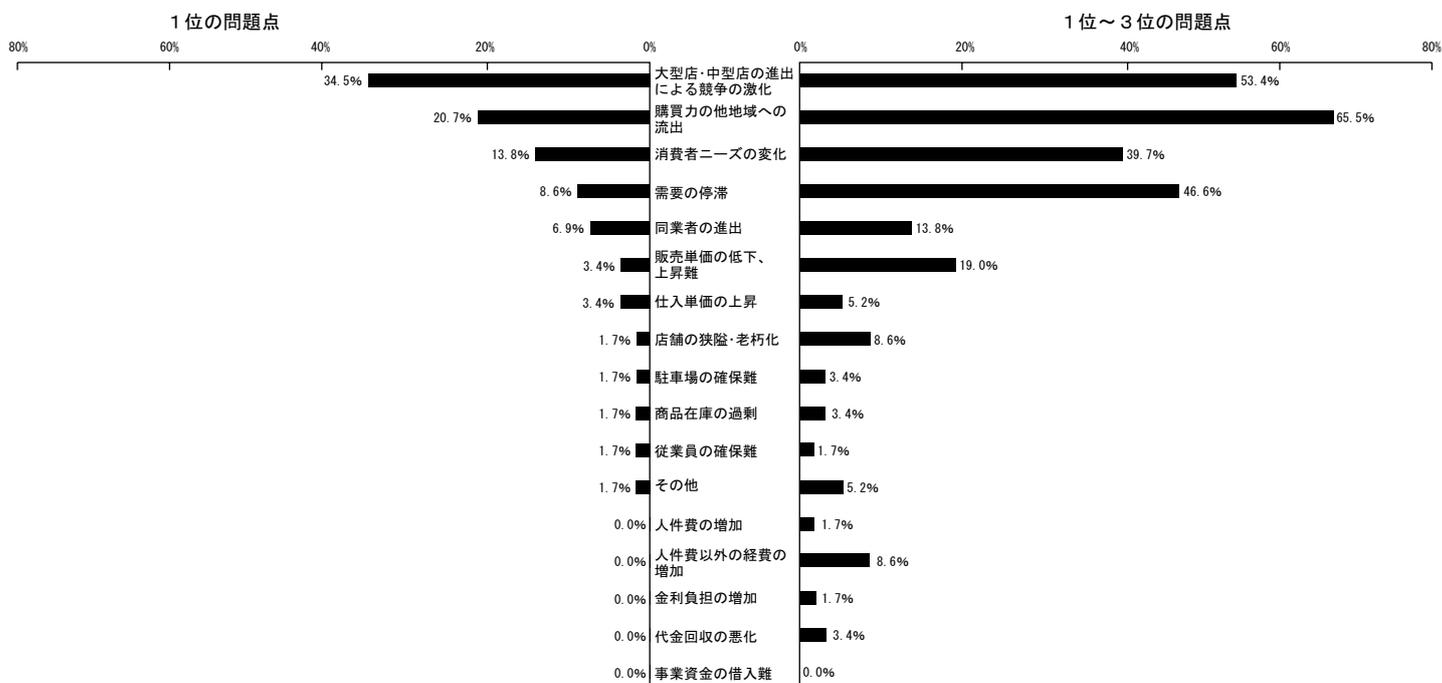
2番目に多い項目は「購買力の他地域への流出」であり前期から変動なく20.7%となっている。

専門店や大型店は引き続き郊外に進出する傾向であり、既存店は特色ある店舗づくりなど工夫していくことが求められている。

3番目に多い項目は「消費者ニーズの変化」であり、+10.4%増加して13.8%となった。

4番目に多い項目は「需要の停滞」であり△3.5%減少したが8.6%となっている。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



5. サービス業の動向

1. 景況概況

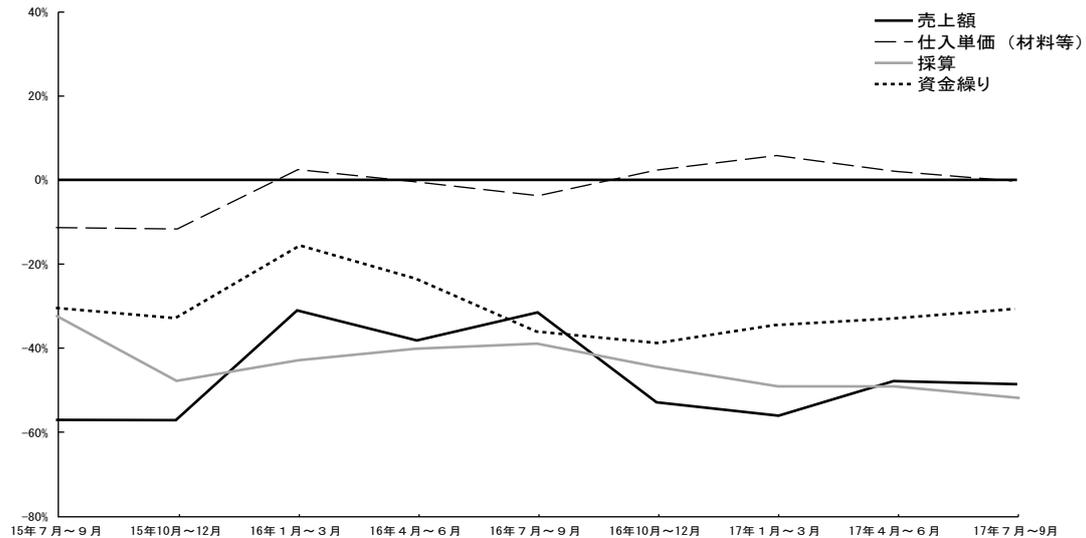
「売上額」は前期（平成17年4～6月期）より△1.4下降して-48.6となっており、依然として低水準の状況である。

「仕入単価（材料等）」は前期より△2.9下降して前年同期と同じ水準の0となっている。燃料価格は値上がり傾向が継続していたが、ようやく落ち着いた情勢にはなっている。

「採算」については△3.0下降して-51.6となっており平成16年7～9月期より右肩下がりでも推移している。

「資金繰り」は今期も+2.1上昇して-30.3となっており、前期に引き続き若干改善した結果となっている。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



2. 主な項目で見る業況

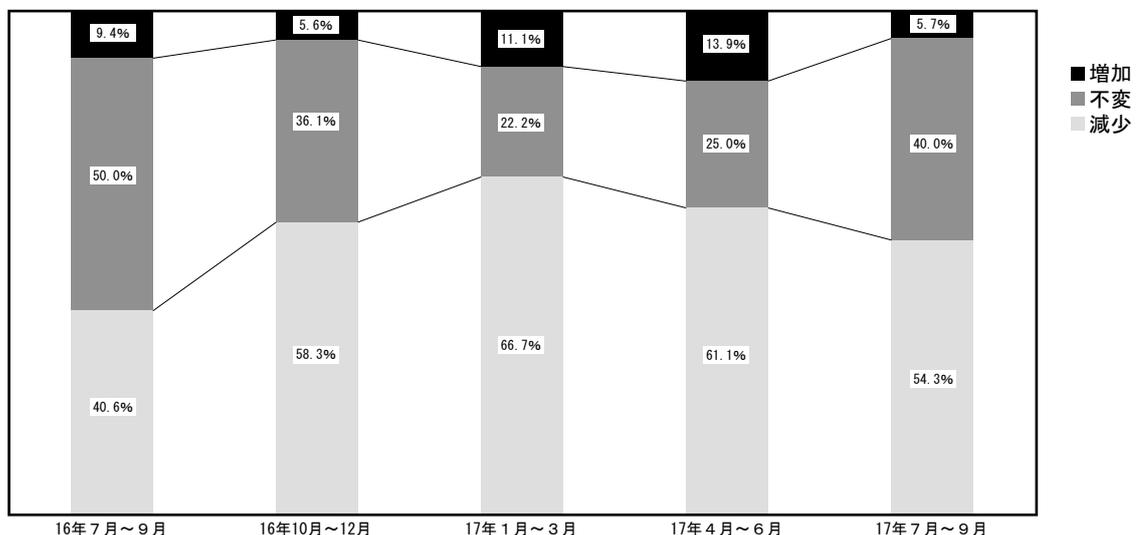
(1) 売上額

前期（平成17年4～6月期）より△1.4下降して-48.6となった。前期は一時的に改善したが今期はふたたび下降し、全体としては下降傾向である。

「客単価」は前期より+3.7上昇して-32.4となったが、「客数」は△5.8下降して-55.8となっている。前期は若干改善した結果となっているが今期は客数が大きく下降している。

経営上の問題点では前期の「利用者ニーズの変化」に加え「需要の停滞」を挙げる企業が多く、ともに1番多い項目となっている。特に客数が下降しているので創意工夫をもって利用者の増加に対処していくことが必要となってきている。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－



(2) 採算

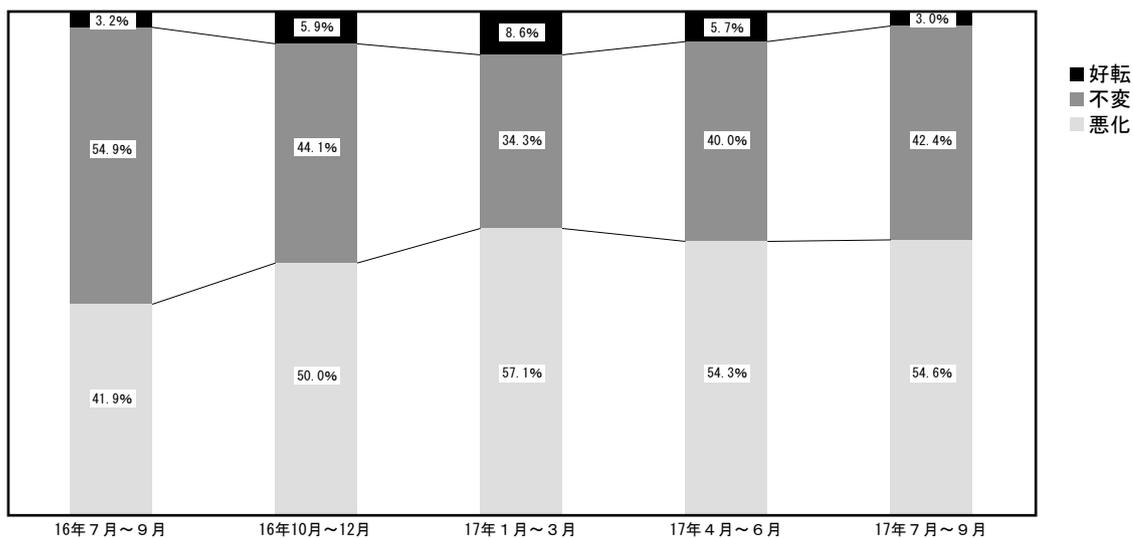
前期より△3.0下降して-51.6となった。売上額の下降に連動して下降した結果となっている。

「従業員（含臨時・パート）」は前期より+3.1上昇して-6.3となっており引き続き増加傾向となっている。

厚生労働省山梨労働局が発表した平成17年9月の有効求人倍率は1.11倍で、前月より△0.02下降したものの1倍台を維持していると報告している。

全国的な統計（厚生労働省の毎月勤労統計調査平成17年9月分速報）では事業所規模5人以上の企業で前年同月比でみて現金給与総額は0.8%増、所定外労働時間は1.0%増、常用雇用は0.5%増、夏期賞与は1.3%増と発表している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－



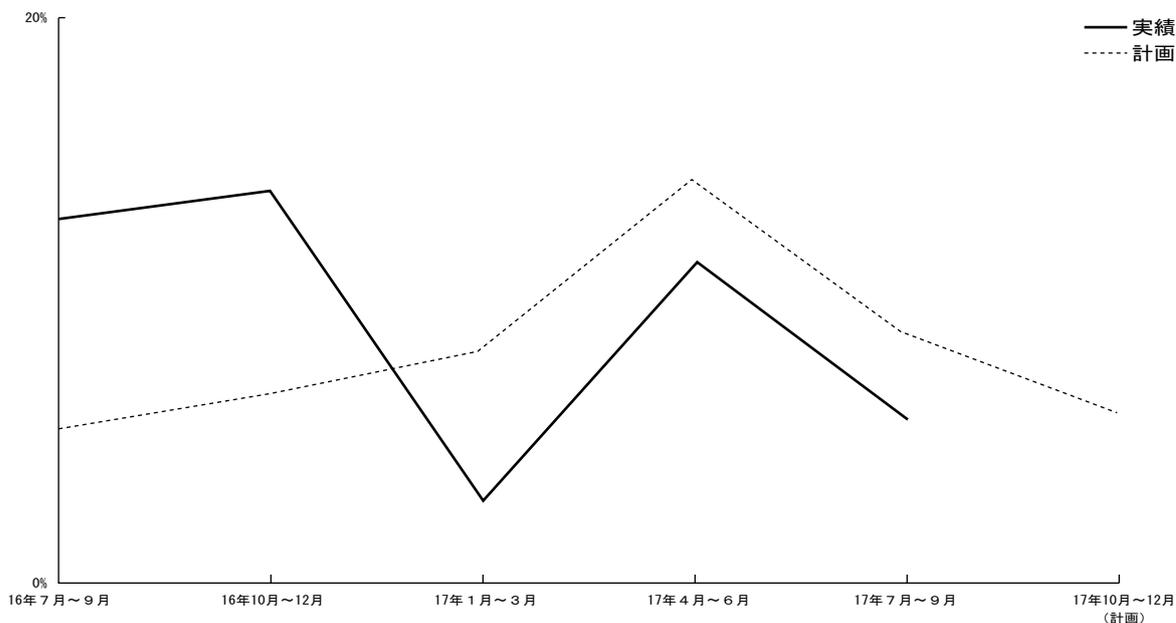
(3) 設備投資

「今期実施」した企業は、前期より△5.7%減少して5.7%であった。計画していた企業は8.8%であったので実施した企業のほうが今期も少ない実績であった。

設備投資した内訳は「付帯施設」「OA機器」でいずれも50%であった。「サービス」は計画段階ではあったものの、実施までには至らなかった。

来期「計画している」企業は今期計画した企業より減少する予定であり、5.9%の企業となっている。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



(4) 経営上の問題点

「利用者ニーズの変化」は前期より△7.2%減少して24.2%となった。又「需要の停滞」も△4.4%減少して24.2%となったがともに一番多い項目となっている。

その次に多い項目は「利用料金の低下、上昇難」であり+9.5%増加して15.2%となっている。

比較的新規に参入しやすい業界でもあるので、競争が厳しくなり低料金への対応に苦慮している企業が多いものと見られる。

「新規参入業者の増加」は△2.2%減少したが12.1%で4番目に多い項目として引き続きつづき注視されている。

山梨県 サービス業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）

